

令和5年度 広島県 英語教育改善プラン

目標

児童生徒が、初対面の外国人等に対して、英語を使って主体的にコミュニケーションを図ろうとする姿が授業内外で実現され、児童生徒の英語力や英語学習に対する意欲が高まっている。
(児童の英語による言語活動時間の割合が半分以上と回答する学校の割合：98%以上)

1. 現状

①授業中、75%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合の増加（前年度比+3.0）。
R3 56.3%→R4 59.3%

②「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」を評価するパフォーマンステストの実施状況の改善（前年度比+1.1）。
R3 98.1%→R4 99.2%

③「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の設定状況等の改善。

| 設定 | 公表 | 達成状況の把握 |
|------|------|---------|
| 100% | 100% | 98.7% |

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①児童の英語による言語活動時間の割合の減少（前年度比▲3.1）。
R3 96.6%→R4 93.5%

②「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の達成状況を把握している学校が、目標値の100%に至っていない。

2. 分析

①研修等を通じて、「言語活動を中心に据えた授業」を展開することが浸透し、英語による言語活動を行う教員が増加している。

②目標、指導と評価の一体化の観点から、単元等の目標を設定する際に、「児童に身に付けさせたい力の具体」を明確にし、その力が身に付いたかを見取るための評価を実施する教員が増加している。

③小中連携や研修等を通じ、「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の設定等について理解が進んでいる。

①授業中、50%以上75%未満の時間、言語活動を行っている学校の割合が減少しており（前年度比▲6.2）、学校により言語活動の取組状況にばらつきがある。

②研修等を通じ、「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の、達成状況を把握する必要性について周知する。

3. 施策・事業

①②③①②

小学校外国語教育推進研修

《趣旨》

小学校外国語教育の円滑な実施と充実を図るため、各地域の中核となる教員を小学校英語専科として加配措置し、小学校外国語教育の課題に対応した授業改善に向けた実践的な研修を実施し、児童の英語力の向上を図る。

《内容》

- ・県内の小学校等に15名の小学校英語専科教員を加配措置する。
- ・小学校英語専科教員を対象とした研修を年3回開催し、指導力及び専門性の向上を図る。
- ・年3回開催する研修のうち2回は、県全体から希望する参加者を受け入れ、小学校英語専科教員の代表者による研究授業・研究協議等を行い、県内全体の指導力向上を図る。
- ・オンラインでの協議やWebサービス等を活用し、小学校英語専科教員間の連携、情報交換を強化する。
- ・小学校英語専科教員による好事例を基に、小学校外国語教育に関する指導資料を作成し、県内に普及する。
- ・外部専門機関等から有識者を講師として招き、研究の進捗等について指導・助言を受ける。

○新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合を、R7年度に50%にすることを目標に、段階的に確保していく。
R5 30%（79名）→R6 40%（105名）→
R7 50%（132名）

令和 5 年度 広島県 英語教育改善プラン

目標

児童生徒が、初対面の外国人等に対して、英語を使って主体的にコミュニケーションを図ろうとする姿が授業内外で実現され、児童生徒の英語力や英語学習に対する意欲が高まっている。
(求められる英語力を有する生徒の割合：50%以上、生徒の英語による言語活動時間の割合が半分以上と回答する学校の割合：87.5%以上)

1. 現状

①授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合の増加（前年度比+7.6）。

R3 73.7% → R4 81.3%

②授業において、発話の50%以上を英語で行っている英語担当教師の割合の増加（前年度比+3.7）。

R3 71.3% → R4 75.0%

①中学生に求められる英語力を有する生徒の割合は、国の目標値に達していない（前年度比▲0.7）。

R3 45.7% → R4 45.0%

②自分の考えや気持ちなどを即興で伝え合ったり、まとまりのある内容を話したりするなど、生徒の「話すこと」の技能に課題がある。

③生徒が英語でコミュニケーションを図ろうとする意欲に課題がある。

2. 分析

①言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成するというポイントを踏まえ、英語担当教師が、言語活動を中心に据えた授業づくりを行っている。

②授業を英語による実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本としながら、英語担当教師が指導改善を図っている。

①県内において、生徒の英語力を共通の尺度で把握する方法が確立されておらず、客観性に乏しい。

②「話すこと」の指導が十分に行われておらず、授業内外で英語に触れる機会が十分でない。

③生徒にとって英語を使う必然性のある場面で、自分の考えや気持ちを伝え合う楽しさや喜びを実感できる機会を創出していく必要がある。

3. 施策・事業

①②

オンライン学習教材の提供

・県教育委員会が民間事業者等と連携し、4技能5領域を網羅したオンライン学習教材を県内全公立中学校生徒に提供。

指導力向上に向けた教員研修の実施

・指定校をはじめとする先進的な授業づくり、教育課程外の取組等、好事例を発信。

① 英語アセスメントテストの実施

・県内公立中学校の全生徒を対象に英検IBAを実施。
・県内公立中学校の第3学年全生徒を対象に、「話すこと」に関する調査を実施（MEXCBTを活用）。

②「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業

・県教育委員会が海外の教育機関等と連携してプラットフォームを構築し、県内の中学校等のニーズに対応した学校を紹介するとともに、交流授業等の実施を支援。協力校5校。

中学校英語授業の効果的な指導方法（5ラウンドシステム）等に関する実践的研究

・5ラウンドシステムを取り入れた中学校英語授業の在り方に関する実践的研究を実施。研究推進校8校。

③ English for Communication事業

・外国語指導助手（ALT）や英語が堪能な地域人材を活用し、英語を使ってコミュニケーションを図ることができるイベント等を教育課程外で実施。

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

令和5年度 広島県 英語教育改善プラン

目標

授業全体が実際のコミュニケーションの場となるよう、授業中50%以上の時間、言語活動を行っている生徒の割合を55%以上、発話の50%以上を英語で行っている学校の割合を50%以上にする。

1. 現状

① 逆向き設計による単元計画及びパフォーマンス課題の研究・開発。

① 授業改善については、生徒・教員ともに英語の使用状況が少ない。
 ・授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている生徒：52.0%
 ・発話の50%以上を英語で行っている学校：28.3%

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

2. 分析

① 逆向き設計による単元計画及びパフォーマンス課題を開発することにより、指導と評価の一体化を可視化し、意識して授業実践につなげることができた。

① 「授業は英語で行うことを基本とする」環境づくりについて、学習指導要領の趣旨を理解し、授業全体が実際のコミュニケーションの場となるようにする必要がある。

3. 施策・事業

① 単元計画及びパフォーマンス課題の研究・開発を継続し、指導と評価の一体化を図る授業づくりを推進する。

① 各種研修において、学習指導要領の趣旨の徹底を継続する。また、研究指定校を中心に学校訪問し、授業観察等を行い、授業改善に向けた指導・助言を行う。